

日本のSMIクライアント

松下電器産業創業者・**松下幸之助氏**
京セラ創業者……………**稲盛和夫氏**
日本マクドナルド創業者…**藤田田氏**
本田技研工業創業者・**本田宗一郎氏**
ダスキン創業者……………鈴木清一氏
ソニー……………成田充三氏
ウシオ電機社長……………牛尾治朗氏
味の素……………北沢茂氏
モスバーガー創業家……………櫻田厚氏
ユナイテッドアローズ……重松理氏

セコム創業者……………飯田亮氏
オートボックス創業者……住野敏郎氏
車検のコバック……………小林憲司氏
Jリーグ初代チェアマン……**川淵三郎氏**
やずや……………矢頭美世子氏
オリンピックメダリスト

清水宏保氏、山下泰裕氏、堀井学氏

高校スポーツほか

元駒大苫小牧高校野球部 香田誉士史氏
(**田中将大、星野仙一、野村克也**など)

元帝京高校サッカー一部 古沼貞雄氏



京セラ・超成長の秘密!!

私の経営観

京セラ会長 第二電電会長 稲盛 和夫氏

私は自分の体験から「成功への道は能力ではなく、やれば出来ると信じて行動することだ」と断言する。

●稲盛和夫氏プロフィール●

昭和7年、鹿児島生まれ。鹿児島大工学部卒。34年、同僚7人と資本金300万円で京都セラミック株式会社を設立。現在、京セラ株式会社取締役社長。昭和47年5月、SMIプログラム採用。



「成功への道は能力ではない」

(京都プレゼン・スクール講演より)

—1982年5月26日 京都銀行経営相談所主催—

アメリカのテキサスにSMIという成功のための研究所を創設したポール・マイヤーという男がおりますが、彼は、情熱が事業を成功させる、と言っています。念というものが事業を成功させる基だということです。そしてまた、セルフ・モチベーションこそ最も大切なものであると言います。自分自身を励ます、自分自身を勇気付ける。他人から認められたり励まされたりするのはなしに、自分自身を自分で最悪の逆境の時に励まし勇気付けられる人、その心を持っている人は何をやらせても出来るわけです。必ず成功します。SMIプログラムというのがありますが、そういうものを利用して、そういう状態が作れますと、今まで経験を持っていない事業分野に出られても必ず成功します。

人材はない、資金力はない、技術はないとないづくしなんです、どうしてもやりたいという一念で思っていますと、マイヤーも言っていますが、人材にはいろいろなところで遭遇します。技術は技術で、最近では、特に日本の場合には技術屋の流動性が高まってきていますから、技術屋にも巡り逢うことが出来ます。ホケッとしていますと、同じチャンスに遭遇してもチャンスと見えなわけです。マイヤーの言うとおり金でも技術でも人材でも、常日頃強く強く考えていますと、必ずそういうものは手に入ります。私どもの企業が新年度を迎えまして、新しい多角化路線をとっていますので、今年の正月、社員の皆さんにこういうことを申しました。「新しき計画の成就是不埒不屈の一心に有り。さらばただ思え、強く気高く一筋に」。これが、もの事を成していくエッセンスではなからうかと思っております。



SMIは 私の心のビタミン剤だ！ 8年連続の 松下幸之助氏

SMIは、PHPで連続6回に渡って列挙で紹介されました

モチベーションと自信

ポール・J・マイヤー (サクセス・モチベーション教育者)

人は常に二つの顔をもつ。その一つは現在の顔であり、もう一つは「こうありたい」という顔である。ただし、心に描く「こうしたい」という顔は、気ままなもので、思ったり考えたりすることは自由であるのだが、さて、手づかみすることになると、なかなかないへんなんだ。過日、車でテキサス州ダラスへ向かう途中、一匹のハエが車の中に飛び込んできて、風よけガラスに顔をぶつけた。ガラスに響くまで90マイルのスピードで走っていたが、響くまでな。ハエは、休みなく顔をぶつけ通していった。わたしは、ハエに「車の窓が開いているのに、なぜとささやいたが、ハエは相変わらず、外に飛びださずじまい。ハエは、何とかして、『早く外へ飛びだしたい』と望んでいたが、いらないが、どうしよう、ガラスに響くまで、車の窓が開いているのにもかわらな。ハエは外へ飛びだせなかった。

もしも、ハエが、しばらくあたりを見まわし、状況を判断して、どしたら外へ飛びだせるか行動計画を立てて一歩を踏みだしたらどうだろうか？...ほんのちよつとしたことだが、いままでガラスに顔をぶつけずにすんだであろう。

このちよつとした技術が大変なものである。たとえば、鼻の差の勝負というが、いま、かりに「聞くところによると、日本も暫くアームだろ？」だ。競馬の一番賞を百万円として、一番を四十七万とする、鼻の差で二回勝つては、

モチベーションを組織化し、計画化して、明確な目標を設定すれば、見違えるほどすばらしいもう一つの顔が現実になる。

の写真判定による勝ちなのに、賞金の格差は大きく異なる。というように、ほんの少しのモチベーションをもつことになって、人生は、大きく開ける。というのではなからうか？ このモチベーションを組織化し、計画化して、明確な長期、短期の目標を設定すれば、見違えるほどすばらしい。心に描いたもう一つの顔が現実になるのである。だが、擬人法としてハエの人間は、いつの時代でも多く、そのなかで抜きん出た人となる。みんな、ほんの少しのモチベーションで、はつきり目標に向かって歩いているだけだ。

面白い話がある。ノミをガラスの容器の中に入れて、跳ばし続けているうちに、その容器の高さに慣れてしまふ。容器をはずしても、そのノミは同じ高さしか跳ばないのである。そのノミは同じ高さしか跳ばないもので、その高さが跳べないと思ひ込んでしまふのである。意外この姿は、われわれの今日、たゞいまの姿かも知れない。だが、もう一つの「こうありたい」という顔は、だれでも持ち合わせているのに、それを具現化しようとしていない。ノミのように、現在、という高さははねていないのが悲しい。心に描いた願望を現実化するには、どうしたらよいのか？...わたしは考えたのは、除隊後、サンホセ州大に九十日間通い、マスター教育に勉強しなつて飛びだした。生命保険のセールスマンになつたころであった。

「自分が以上の能力をもち、高等教育を受けて経験を身につけるのに、なぜ、人びとは実績があがらないのか？」この疑問を分析し方法を追求してみた。最近自分の販売組織のセールス二十七歳の時だったが、月収二万ドルにもなつた。

スマンに、目標と障害とを併記させてみると、効果はすぐにあつた。半年もあけてはトップアツたのである。

「障害を自分から取り、そのために心には描いた願ひもつかぬない。自信もつくし、思つたのだと思つたのである。大きな機関車を買って、一インチの木片を車輪の前に置き、ば動けないうち、時速百マイルで走行していきなれば、厚さ五インチの鉄筋をぶち抜くことが出来るように、目標に向かって歩いている人間も、進行中の機関車の威力と同じである。目標のない人は、レールのない機関車と同じで、停止した人間と同じです。目標と自信の代官詞ともいいます。

また、わたしはセールスマンだったときに、ある社長に、どうしても金を使つたことがあるが、社長の金印は一直線になる。雨だれと同じで、一定の方向に向かえば、聞をおく度僅に落ちて、浸透という化学的現象が発揮され、無闇に自己は拡大されるのである。拡大は目標を生み、自信はより高い目標への可能性を生む。

目標のない人は、レールのない機関車と同じで、停止した人間といつてよい。目標こそ自信の代名詞である。



AUTHORIZED AGENCY FOR PJM JAPAN

京セラ・超成長の秘密!!

私の経営観

京セラ会長 稲盛 和夫氏
第二電電会長

私は自分の体験から「成功への道は能力ではなく、やれば出来ると信じて行動することだ」と断言する。

●稲盛和夫氏プロフィール●

昭和7年、鹿児島生まれ。鹿児島大工学部卒。
34年、同僚7人と資本金300万円で京都セラミック株式会社を設立。
現在、京セラ株式会社取締役社長。
昭和47年5月、SMIプログラム採用。



「成功への道は能力ではない」

(京都プレジデント・スクール講演より)

——1982年5月26日 京都銀行経営相談所主催——

アメリカのテキサスにSMIという成功のための研究所を創設したポール・マイヤーという男がおりますが、彼は、情熱が事業を成功させる、と言っています。

念というものが事業を成功させる基だということです。

そしてまた、セルフ・モチベーションこそ最も大切なものであると言います。自分自身を励ます、自分自身を勇気付ける。他人から慰められたり励まされたりするのではなしに、自分自身を自分で最悪の逆境の時に励まし勇気付けられる人、その心を持っている人は何をやらせても出来るわけです。必ず成功します。SMIプログラムというのがありますが、そういうものを利用するなどして、そういう状態が作れますと、今まで経験を持っていない事業分野に出られても必ず成功します。

人材はない、資金力はない、技術はないとないないづくしなんですが、どうしてもやりたいという一念で思っていると、マイヤーも言っていますが、人材にはいろいろなところで遭遇します。技術は技術で、最近、特に日本の場合には技術屋の流動性が高まってきていますから、技術屋にも巡り逢うことが出来ます。

ポケットとしていますと、同じチャンスに遭遇してもチャンスと見えないわけです。マイヤーの言うとおりに金でも技術でも人材でも、常日頃強く強く考えていますと、必ずそういうものは手に入るのです。私どもの企業が新年度を迎えまして、新しい多角化路線をとっていますので、今年の正月、社員の皆さんにこういうことを申しました。「新しき計画の成就是不境不屈の一心に有り。さらばただ思え、強く気高く一筋に」。これが、もの事を成していくエッセンスではなかろうかと思っております。